

大学沼合同トレッキングで思ったこと

コーディネーター：出羽 寛（1964年生物入学）

2018年7月20日～21日、大野正夫さんの発案から宮寄捷二さん、松本芳樹さん、伊吹明朗さん、出羽寛の5人のメンバーで大学沼トレッキングを行った。横浜市大探査会学生部が1962年（H37年）に行った大雪山学術調査隊の隊員であった宮寄捷二さん、松本芳樹さんにとては実に57年ぶりの大学沼との再会であった。

下山後1ヶ月経って大雪山系の入り口の一つ東川町を訪れた。大雪山ライブラリーで担当の西原義弘さん（元北海タイムス社長）に会い、大雪山学術調査隊の計画書、一般報告者、寺島和光追悼集、横浜市大探査会・探査部創0周年記念大会発表要約集を寄贈した（上川町にはすでに寄贈していた）。

その時、西原さんから北海タイムスのコラム「大雪山と人と」の一つ「明美沼」（1984年、S59年）を見せられて驚いた。それまで「大学沼」は横浜市大の学術調査がきっかけと信じ込んでいた私にとって、そのコラムには金沢大学説が書かれていたからだ。さらに1966年（H41）の上川町史には法政大学説が書かれていた。大学沼の命名に3つの説が出現した。

私は個人的な興味から何が正しいのか調べ始めた。途中混乱して大学沼の命名の由来をときほごすのは無理ではないかと思った時もあった。

それから4年、OB会幹事長の川尻さんとの共同調査によってやっと横浜市大説が正しいことがわかり、昨年（2022年）上川町からも認められ現在に至っている。

三村さんの当時の新聞スクラップ、写真アルバムの発見もあり、来年に向けて、新しい地図を作り、裏面には扇ヶ原開拓の歴史、大学沼の由来も含めることにしている。これまでの経過については改めて書きたいと思っている。

今年（2023年）9月、探査部現役学生3名、OB4名の7名で、大学沼を紹介する川尻幹事長の面白い企画を持って扇ヶ原の大学沼を訪れた。私は残念なことに膝の故障から登れず高原温泉で留守番、素晴らしい露天風呂に4度も浸かりながら考えた。

大学沼命名の由来だけでなく、当時学生であった先輩たちによって行われた大雪山学術調査は何を目的にして、調査方法や成果はどうであったのか、そこから得られたものは何か、考えてみるととはこれから探査部の活動にとっても必要ではないだろうかと。

すでに制限字数を過ぎているので、考えた内容はまたの機会にします。

大雪山高原山荘での前夜パーティー（右・出羽OB）



上川町郷土資料館（前列中央・出羽OB）

